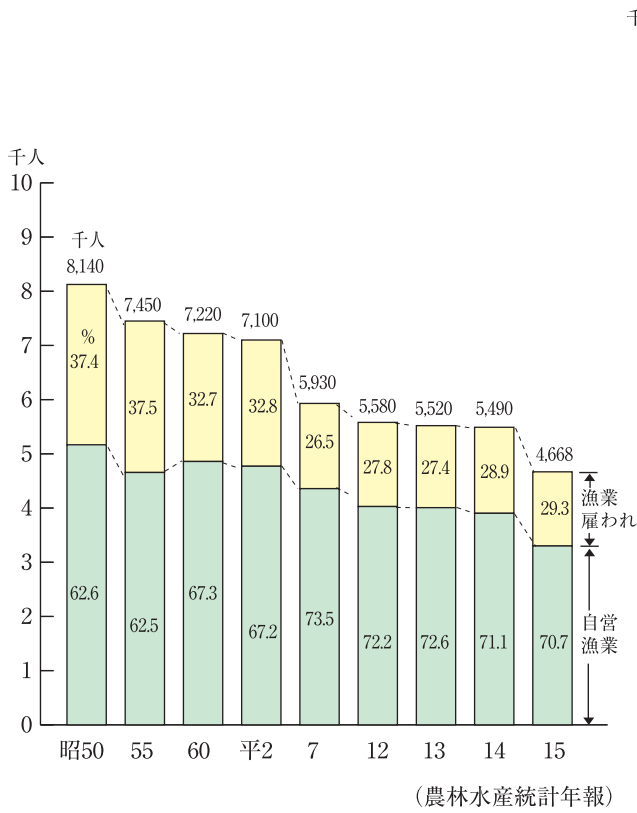


3 水産部門

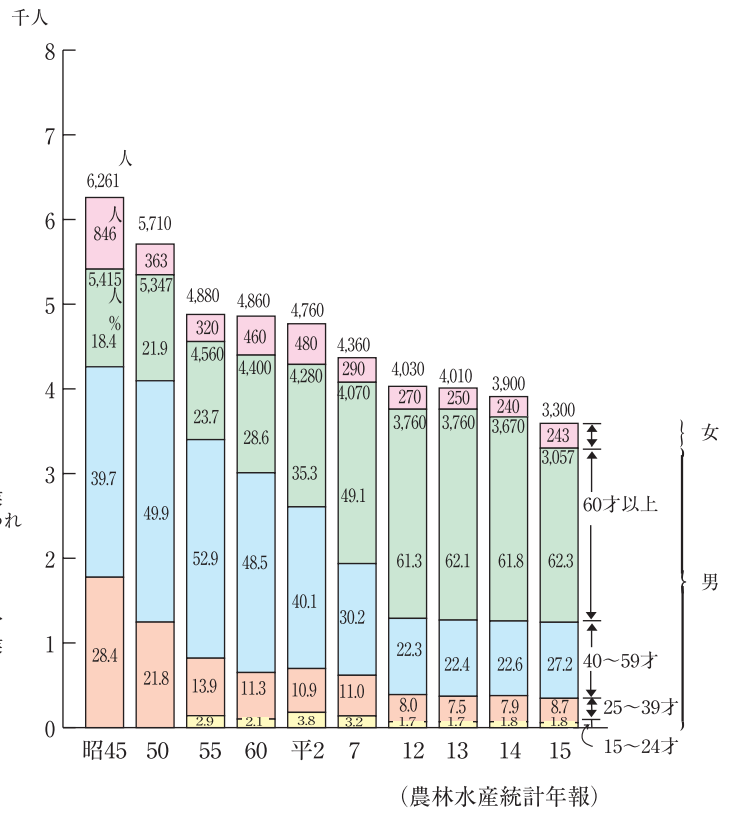
1) 水産業を担う人々

漁業就業数は減少傾向で推移しており平成15年の漁業就業者数は4,668人である。
 また、自営漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が62.3%を占め高齢化が進んでいる。

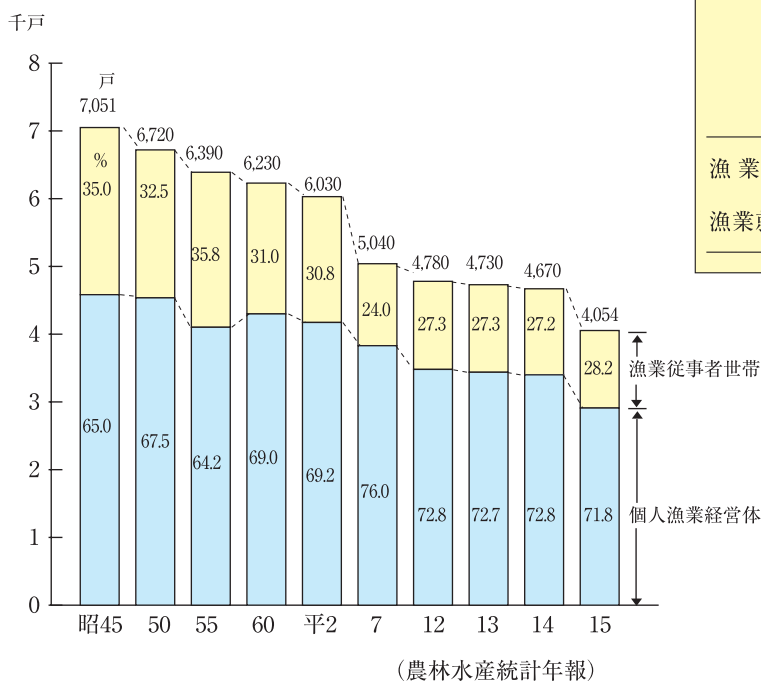
漁業就業者数の推移



自営漁業就業者数の推移



漁業世帯数の推移



漁業世帯数等

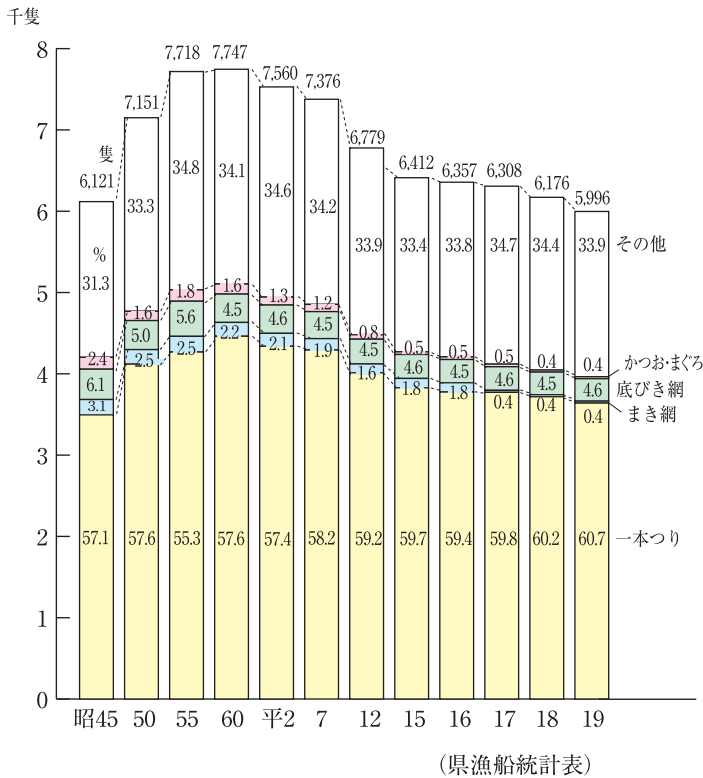
〔平15〕	全国	和歌山県		
	実数	実数	順位	シェア (%)
漁業世帯数(戸)	175,819	4,054	16	2.3
漁業就業者数(人)	238,371	4,668	20	2.0

1位 2位 3位
 北海道 長崎 宮城
 北海道 長崎 三重

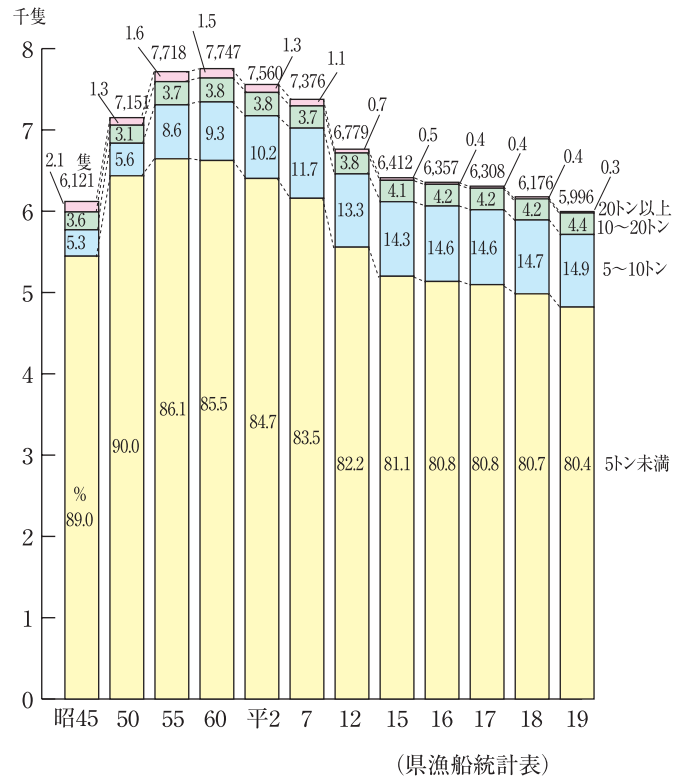
2) 水産業の基盤

海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向で平成19年12月末日現在では5,996隻となっている。漁業種類別では「一本釣り」が60.7%、「底びき網」4.6%である。トン数別では5t未満の小型漁船が80.4%と大半を占めている。

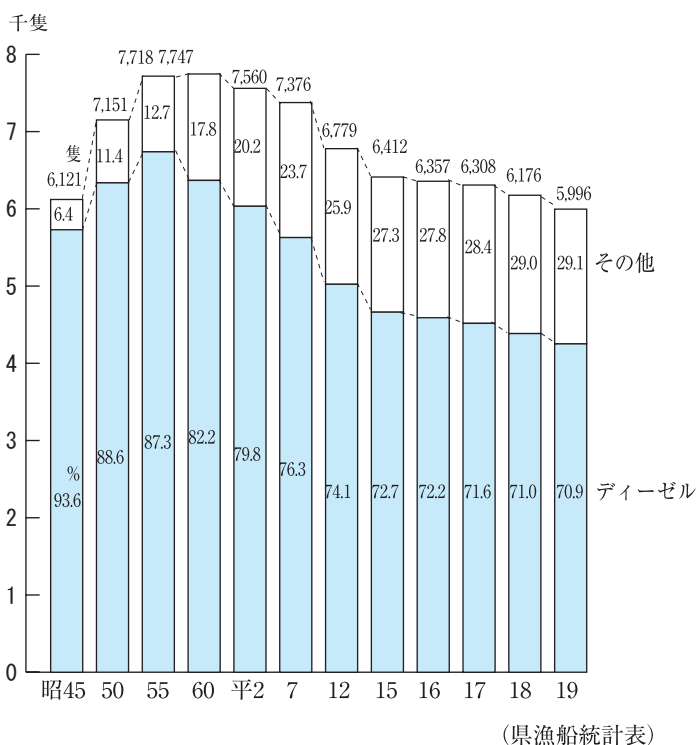
漁業種類別海水動力漁船数の推移



トン数階層別海水動力漁船数の推移



機関種類別海水動力漁船数の推移



漁港の現況

本県には、95港（全国2,921港）の漁港と、122地区（全国4,698地区）の漁業集落がある。また、漁港の種類は、漁船の利用範囲によって下表のように分類されている。

種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	78	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	95	

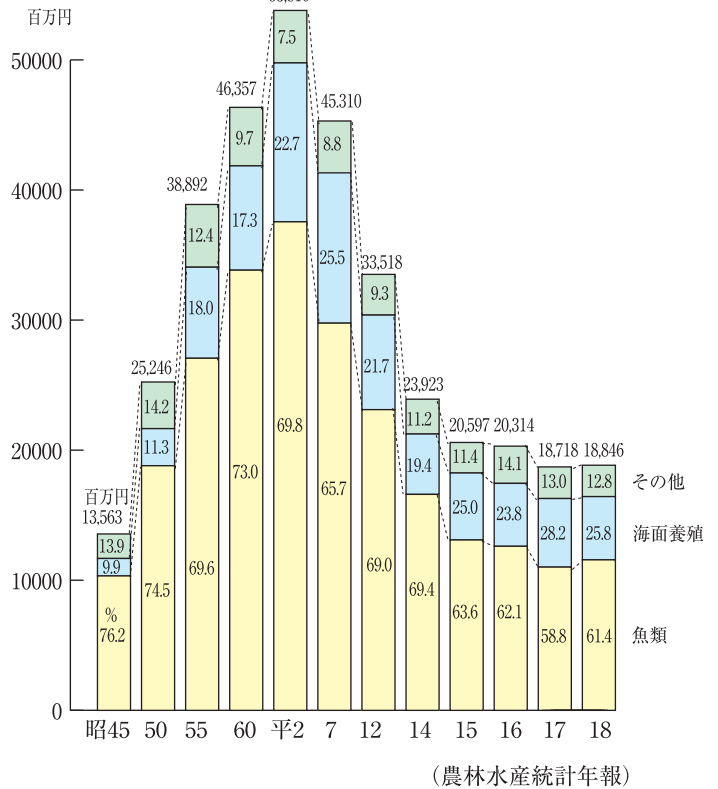
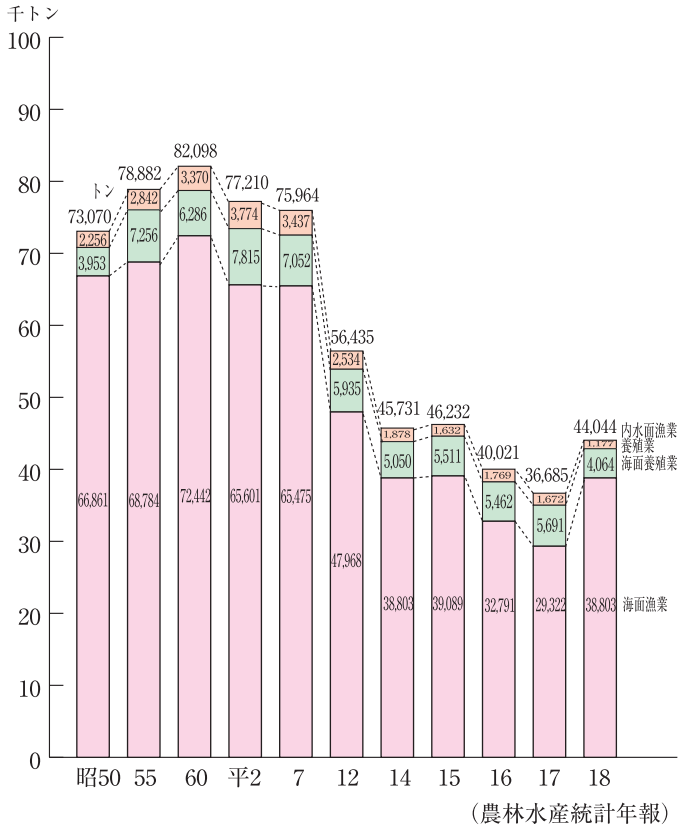
3) 水産業の生産

漁業・養殖業の生産量は昭和60年の82,098 t をピークに減少傾向にあり、平成18年は44,044t となっている。

海面漁業・養殖業生産額は平成2年をピークに減少傾向で平成18年は188億46百万円でピーク時の35.0%となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移

海面漁業・養殖業生産額の推移



— 漁 獲 量 —

〔平18〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	(t)	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	4,469,531	38,803	26	0.87	北海道	宮城	茨城
魚類	3,504,002	36,074	24	1.03	北海道	茨城	宮城
えび・かに・いか・たこ	397,454	1,475	34	0.37	北海道	青森	石川
貝類	354,776	76	38	0.021	北海道	愛知	福岡
海藻類	113,664	782	12	0.69	北海道	愛知	青森
海面養殖業	1,182,584	4,064	23	0.34	北海道	宮城	広島

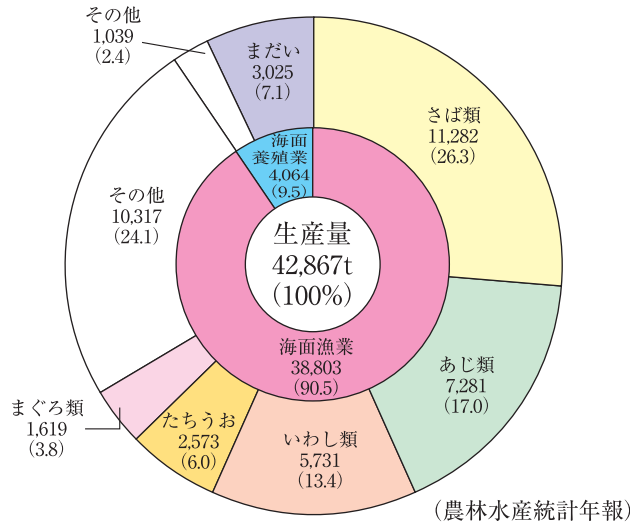
— 生 産 額 —

〔平18〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	(百万円)	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	1,078,339	13,984	25	1.3	北海道	長崎	宮城
海面養殖業	449,607	4,862	23	1.1	愛媛	鹿児島	北海道

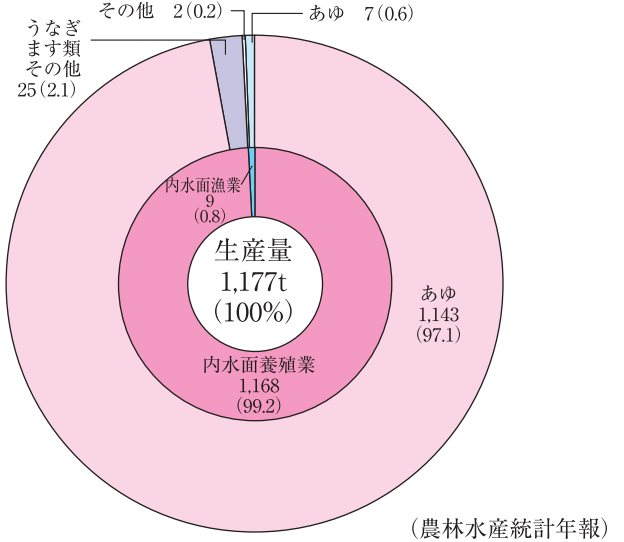
4) 主な漁種別漁獲量・生産額の推移

平成18年の魚種別の生産量は、海面漁業では、さば類26.3%、あじ類17.0%、たちうお6.0%、まぐろ類3.8%となっている。海面養殖業では昭和62年頃から始まったぶり類養殖からまだい養殖への魚種転換により、まだいが74.4%を占め、内水面漁業・内水面養殖ではあゆが97.7%となっている。

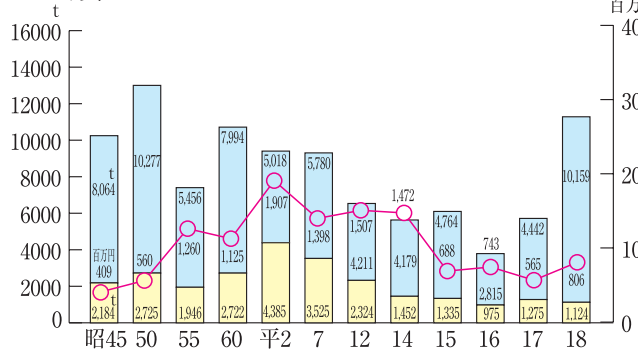
海面漁業、養殖業魚種別生産量（平18）



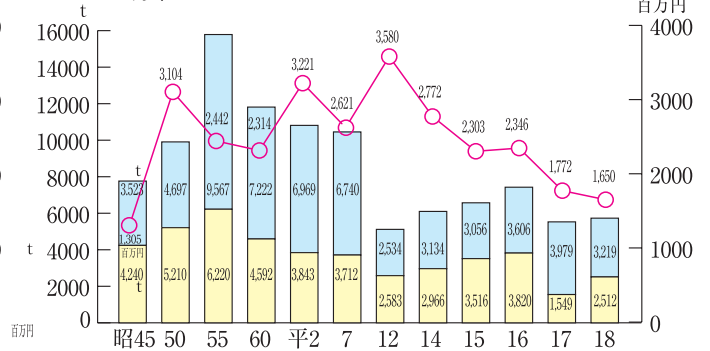
内水面漁業、養殖業魚種別生産量（平18）



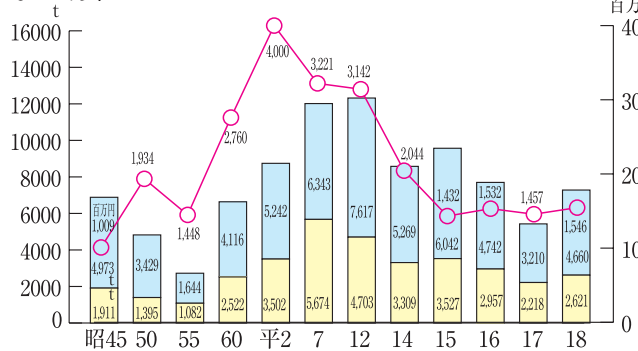
さば類



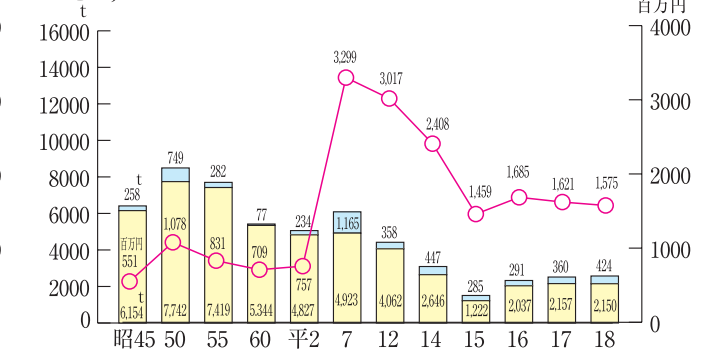
いわし類



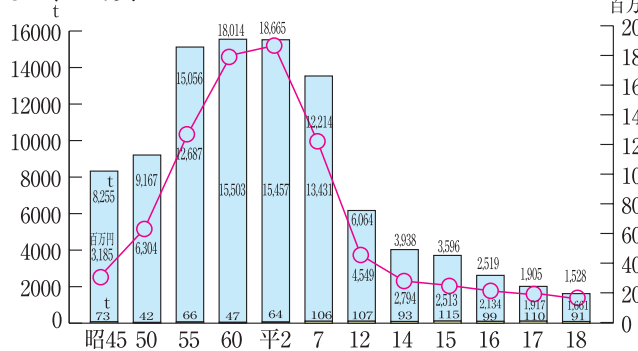
あじ類



たちうお



まぐろ類



漁獲量 (t)
 瀬戸内海区 太平洋南区
 生産金額 (百万円)

(農林水産統計年報)